

第2回全道高等学校選抜登山大会 ペーパーテスト問題

1. 次のコース概況を読み問に答えよ。

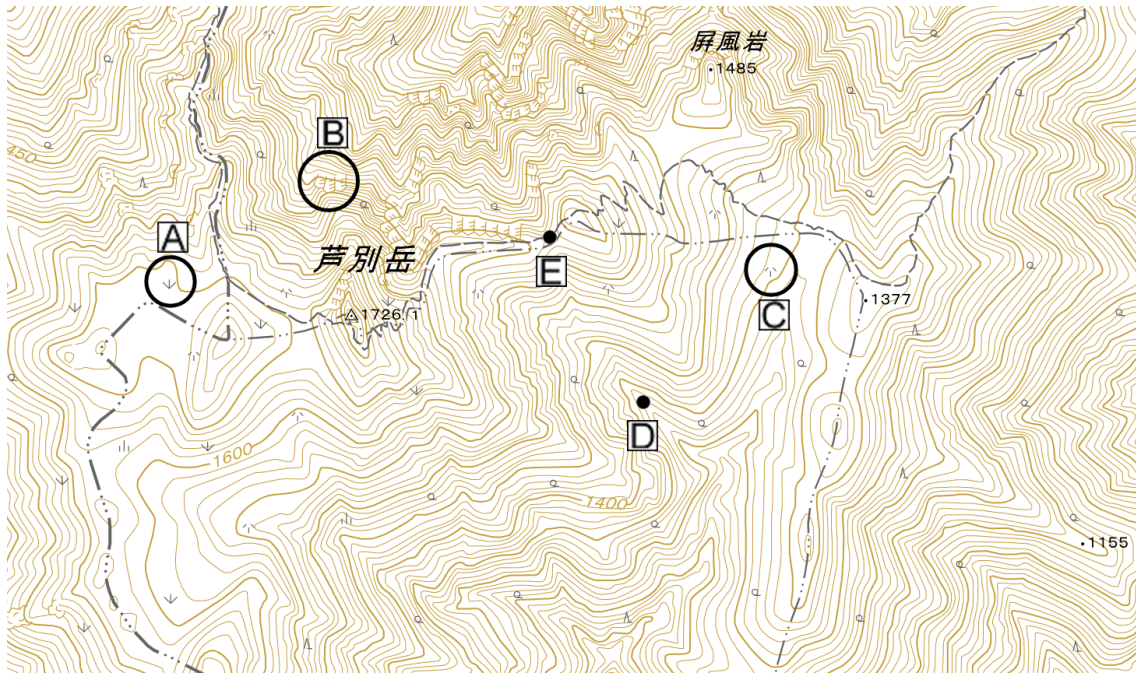
芦別岳は夕張山地にあり、(1) 山脈の西につながる延長約 60km の連山の最高峰である。(2) 川の源流である地獄谷(本谷)に向かって発生する岩稜と夫婦岩の岩壁は、ロッククライミングの場として有名である。芦別岳の北には布部岳、(3) 岳、北の峰などの山が連なっている。芦別岳の西側には石灰岩の岩山である(4) 山があり、アツモリソウやウスユキソウなどの希少な高山植物が豊富なことから乱獲と荒廃が著しく、現在も入山規制がなされている。南側にある(5) 岳は蛇紋岩の土壌に多種の固有の高山植物が生育している花の名山である。

芦別岳の登山道は新道と旧道、本谷コースがあるが。今回は新道コースを登る。水はないので、登るときに充分用意すること。旧道コースは沢沿いをいく楽しいコースであるが、登りに6時間以上かかる上、高巻きやキレットなどの危険箇所も多く、整備されていないので体力をつけてから登ろう。本谷コースは主に残雪期の本谷を詰めるコースで、アイゼンピッケルが必携となる。卒業してから経験豊かなリーダーと入ること。

新道コースは、登山口からすぐ急な登りで樹林帯の尾根に取り付く。ハードの登りははじめつらいものの、体が慣れこんだ頃斜面は緩くなるが、展望は効かない。途中一箇所見晴台と呼ばれ、北東方向に(6) 盆地や(7) 岳連峰、大雪山の山が望まれる場所がある。さらに樹林帯の中の急な登りを登り切ると、約 1100m の(8) に着く。ここはユーフレ小屋からの(9) コースと合流している。ここからは尾根が細くなり、右足下の斜面は切れ落ち。樹木の間から本谷と夫婦岩の岩稜が望まれ始め、残雪期は X ルンゼが目を引き。ダケカンバが目立つようになり、右上に(10) 岩の岩峰を見て進むと 1377m の標高点(11) 山に到着する。頂上は広く平坦で。展望が広がり、今まで見えなかった芦別岳が、標高 1570m の(12) 山の奥にそびえる。コースは一旦下り熊ノ沼の淵を通り、(12) 山へと向かう。芦別岳とは対照に丸を帯びた優しい姿を見せている。ここからは本峰だけでなく、本谷源流部の岩稜、ルンゼなどの大展望が広がる。コースは再び一旦下り最後の急斜面に取り付く。頂上直下に出るコースと南を巻いていくコースと別れる。残雪期は、滑落の危険があるので。南側を巻くことが望ましいが、雪溪の状況を確認して行動すること。頂上は岩峰の上なので高度感がすごい。天気がよければ 360 度のパノラマが楽しめる。

1) () 内に適当な語句を下から選び、記号で答えよ。

- | | | | | |
|--------|---------|-------|-------|---------|
| ア. 十勝 | イ. 雲峰 | ウ. 日高 | エ. 十勝 | オ. 半面 |
| カ. 富良野 | キ. 富良野西 | ク. 鶯谷 | ケ. 勇振 | コ. 夕張 |
| サ. 屏風 | シ. 覚太郎 | ス. 峠 | セ. 山部 | ソ. 上富良野 |



2) 地形図中の A～C の地図記号の意味を下記より選び答えよ。

ア. 笹地 イ. ハイマツ地 ウ. 荒地 エ. 岩がけ オ. 岩

3) 地点 D は ア)尾根 イ)谷 か記号で答えよ。

4) 地点 E と 芦別岳山頂の標高差は次のどれか。記号で答えよ。

a. 110m b. 150m c. 190m d. 230m

2. () 内に語群より適当なものを選び入れて記号で答えよ。

今年の北海道は暑い日が続いた。これは南海上の (1) 気団の勢力が強かったためである。また、台風などによって運ばれている (2) 気団は非常に湿った暖かい空気で、大きな被害をもたらすことがある。台風は中心付近の最大風速が (3) m/s 以上のものをいう。また、大気の上層と下層の温度差が大きいと大気の状態が不安定になり上昇気流が生じ、(4) 雲が発生し、さらに (5) 雲が発達すると雷となる。(6) 雲も雨雲だが、低気圧や温暖前線の接近に伴って現れる。雷の予知には (7) ラジオの空電雑音が参考になる。

芦別岳登山口の気温が 29℃、標高 326m とすると、気温減率から計算すると山頂の気温は (8) ℃となる。

ア. 15	イ. 17	ウ. 20	エ. 赤道	オ. オホーツク
カ. 太平洋	キ. 層積	ク. 積乱	ケ. 雄大積	コ. AM
サ. FM	シ. 短波	ス. 小笠原		

3 救急医療について次の問いに答えなさい。

1) 傷病者への初期対応「3 SABCDE」の表の空欄に適する言葉を語群から選んで記号で答えなさい。

S	Safety &	(①) &状況確認
S	Scene	
S	Spine	頭・首・(②) をまっすぐ
A	Airway	(③) 確認 (話せる? 口の中は?)
B	Breathing	(④) 確認
C	Circulation	脈をとる 手のひらの (⑤) を確認 頭～足指先: (⑥) を探す→止める
D	Disability	頭～足指先: 全身を触って (⑦) を探す
E	Exposure	(⑧) ・雨風雪・日射を避ける

語群

A 冷や汗 B 冷却 C 安心 D 汚れ E 熱中症 F うで G 脈 H 滑落 J 出血
K 心拍 L 異常 M 寒さ N 骨折 P 鼻血 Q 安全 R 背中 S 気道 T 呼吸

2) 次の低体温症に関する文が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

- ①低体温症とは、脳や内臓(深部体温)が 35℃以下になった状態である。
- ②「震え」は重度の症状であり、すぐに意識がなくなる恐れがある。
- ③加温は湯たんぽを作って胸にあてる。接触面積を広くとることが効果的である。
- ④健康な若者は体内の熱生産が大きいので、寒い環境でも低体温症の危険は低い。
- ⑤「脈と呼吸」は、測る必要はない。
- ⑥体温を下げない4箇条は「食べる」「隔離」「保温」「加温」である。
- ⑦身体の熱は筋肉を動かすことで生まれるため、筋肉を動かすためにはカロリーが必要である。
- ⑧手や足を温めると、冷たい血液が循環し、かえって体温が低下することがある。

4 次の文に適する登山用語を語群から選んで記号で答えなさい。

- (1) 沢 (川) の流れをさかのぼっていくこと。
- (2) 川や沢を対岸に渡ること。
- (3) 足を踏み外したりバランスを崩したりして斜面を滑り落ちること。
- (4) 雲の動きや風の吹き方などの気象現象を観察して天候の推移を予測すること。
- (5) 山頂から次の山頂へと尾根伝いに歩く登山形式のこと。
- (6) 山腹・岩壁を横切ること。
- (7) 踏み跡。また踏み跡をたどること。
- (8) テントを用いなくて、ツェルトや岩陰などを利用し野宿すること。
- (9) 稜線が鋭く切れ込んでいる所のこと。

語群

A 廊下 B リッジ C 遡行 D ホールド E ビバーク F ビレイ G 乗越し H アプザイレン
I 高巻き J 徒渉 K トラバース L 縦走 M トレース N クラック P ルンゼ Q へつる
R リングワンデリング S 双耳峰 T ハング V 設営 W 直登 X 滑落 Y 観天望気 Z キレット